

セラピストのリソースを活かす —セラピストの趣味・嗜好が どの様にセラピーに活用されるのか—

日時: 2018年8月30日(木) 13:00~15:00
会場: 神戸国際会議場 4階 401 会議室(定員124名)
日本心理臨床学会第37回大会 自主シンポジウム

2

役割

- 長谷川 明弘(東洋英和女学院大学)
 - 企画者/司会者/指定討論者/指定討論者
- 相模 健人(愛媛大学)
 - 話題提供者
- 木場 律志(神戸松蔭女子学院大学)
 - 話題提供者
- 法澤 直子(長崎純心大学地域連携センター)
 - 話題提供者
- 久持 修(やまき心理臨床オフィス)
 - 話題提供者
- 田中 ひな子(原宿カウンセリングセンター)
 - 指定討論者

3

企画趣旨

- ブリーフサイコセラピーでは、クライアントが持っているリソースをセラピーに活用することを注目してきた(例えば、解決志向アプローチなど)。
- 一方で、セラピストが自らの持ち味(リソース)を持ち込んでセラピーが展開しているものと考えられるがあまり注目されてこなかった。

4

企画趣旨

- 本シンポジウムでは、セラピストの持ち味として趣味や嗜好を取り上げる。セラピストがセラピー業務以外に打ち込んでいる事柄(趣味や嗜好)はそれに没頭している時点でその人らしさが入り込んでおり、セラピーにもその人らしさがにじみ出てくると考えられる。
- セラピストが自らのことを語り、それとセラピーとの関係に何か関連があるのかを掘り下げる形で議論を深めたい。

5

話題提供

- 相模 健人(愛媛大学)
 - クラブミュージックからのセラピー場面の認識の変化
- 法澤 直子(長崎純心大学地域連携センター)
 - スポーツジムでのエクササイズの上達と臨床技法の上達の共通点
- 木場 律志(神戸松蔭女子学院大学)
 - ブリーフサイコセラピーの実践に活かせるスキューバダイビングの姿勢とテクニック
- 久持 修(やまき心理臨床オフィス)
 - 珈琲焙煎における素材の活かし方をセラピーにどう活用できるか?

6

指定討論

- 田中 ひな子(原宿カウンセリングセンター)
- 長谷川明弘(東洋英和女学院大学)

7

タイムスケジュール予定

- 13:00～13:10 シンポジウム趣旨説明
- 13:10～14:10 話題提供(お一人15分×4)
- 14:10～14:20 5-10分休憩
- 14:20-14:40 指定討論(お一人10分×2)
- 14:40-14:55 自由討論(フロアからも含めて)
- 15:00 終了

8

セラピストのリソースを活かす —セラピストの趣味・嗜好が どの様にセラピーに活用されるのか—

指定討論:長谷川明弘(東洋英和女学院大学)

日時:2018年8月30日(木)13:00～15:00
会場:神戸国際会議場 4 階 401 会議室(定員124名)
日本心理臨床学会第37回大会 自主シンポジウム

10

フロー体験

- 内面に没入して、精神集中し、時間感覚が変化
- 活動と意識の融合
- 状況や活動を自分でコントロールしている感覚

11

ヘドニアとユーダイモニア

- アリストテレスにまで遡る概念
- ヘドニズムは、快樂と考えられる幸福についてかんがえること。快樂主義と訳されることがある。
 - ヘドニアはある活動を楽しんでいるときに経験する喜び。

12

ヘドニアとユーダイモニア

- ユーダイモニアは、幸福と訳され、美德と呼ばれる行為を行う良い人生を重視する。
- ユーダイモニアは、個人的な充実のある活動を行っている時に感じられる一連の経験を意味している。最大限の可能性を表現している。活動と肯定的に結びつく感覚が存在する。
- 可能性を活性化させる中で、内面にある最善のモノを引き出すのが趣味ともいえる。

13